

《履修上の留意事項》・この演習の1回、3～7回、11～15回では、クラスをグループに分け、各教員がローテーション形式で同時開講する。
・第7～9回に限り3学科合同で開講する。

《担当者名》○永見慎輔 nagami@hoku-iryo-u.ac.jp 下村敦司 榊原健一 大須田祐亮 児玉壮志 中川賀嗣 富家直明 前田 秀彦 森元 良太 柳田 早織

【概要】

今後の大学生活や卒後の人生を充実したものにするために必要な、大学での学修に必要な能力やモチベーション、健康な心身の維持・管理、人間関係の形成に役立つ社会的スキルを身につける。

【学修目標】

一般目標

- ・言語聴覚士としてのプロフェッショナリズムの基礎を理解し、大学生活における学修および生活の基盤を形成する
- ・医療人として必要な倫理観とコミュニケーション能力の基礎を習得する
- ・大学の教育システムを理解し、自律的な学修態度を身につける

行動目標

1. 言語聴覚療法学科のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーについて説明でき、学士を修了するために必要な学修行動を実践できる
2. 言語聴覚士として必要なコンピテンシーを理解し、大学での学生生活の明確な目標を認識できる
3. 人権、倫理について理解し、大学の規定を遵守した行動を実践できる
4. 医療人として必要とされるコミュニケーションスキルの基礎を身につける
5. 健康な大学生活を送るための日常生活のマネジメント力を身につける
6. 大学の実施する教育システムに適応し、自分に適した学修方法を身につける
7. 大学内、学科内、クラス内での交流を活発化し、ピアサポートを強化する
8. 学科内で構築している学修支援システムについて理解し、円滑に学修に利用することができる

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	本科目における教育内容の外観、履修方法、受講方法について確認、説明をおこなう。また、カリキュラムとこの授業が設定された理由を概説する。	永見 慎輔 下村 敦司
2	言語聴覚士の役割とコンピテンシー	言語聴覚士の現状、役割、コア・コンピテンシーを説明し、学士課程修了後に確立すべき能力について説明する。 また現在、社会が必要とする人間像について理解する。 言語聴覚療法学科のカリキュラムと学修課程、必要なスキルと学修態度について説明する。	永見 慎輔
3	学びの構築1	言語聴覚療法学科 における教育内容の概観、履修方法、受講方法（LMSの活用方法）について確認、説明をおこなう。本授業の進め方について説明する。各授業で用いる学修支援システム（manaba, Classroom, glexa）の利用方法を理解し、実践する。	榊原 健一 永見 慎輔
4	学びの構築2	自己調整学習、メタ認知の必要性について説明する。学習面の特性を知るテスト（探す）などを行って結果を自己評価する。	榊原 健一 永見 慎輔

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
5	コミュニケーションスキル1：基礎	医療人、特に言語聴覚士として必要な、患者、家族、多職種との円滑なコミュニケーションを実現するための基礎を学ぶ。傾聴、共感、質問技法、説明と同意（インフォームドコンセント）などについて、ロールプレイを交えて実践的に学習する。	永見 慎輔 前田 秀彦 森元 良太 柳田 早織
6	コミュニケーションスキル2：振り返り	言語聴覚士に必要な非言語的コミュニケーション（表情、ジェスチャー、声のトーンなど）の観察と理解について学ぶ。患者の状態や感情を読み解く演習を行う。また、前回のコミュニケーションスキルをペア・グループで振り返る。	永見 慎輔 前田 秀彦 森元 良太 柳田 早織
7	実践倫理	法令遵守、大学の規定、公共、人権、医療人として必要なfitness to practiseについて説明する。実践倫理課題について具体的課題を提示し、グループで議論をし、意思決定の選択をする。著作権、大学における著作権の利用方法、個人情報保護について学ぶ。（オンデマンド課題）	榊原 健一 大須田祐亮 児玉壮志
8	健康的なキャンパスライフ作り 1	保健センターの利用方法について紹介する。ワクチン接種、禁煙・防煙、健康診断、衛生について学ぶ。	中川賀嗣
9	健康的なキャンパスライフ作り2	学生生活におけるメンタルヘルスについて理解する。学生相談室の利用の方法、各種障害などからくる学習の問題、合理的配慮、ピアサポートについて説明する。学生生活の実例（バイト、サークル活動と、失敗例、成功例）。	富家直明
10	健康的なキャンパスライフ作り3	日本人の生活習慣病、ストレス、自殺について学ぶ。メンタルヘルス維持のための予防的アプローチとしてのセルフケアの知識を学ぶ。	富家直明
11	アカデミック・スキルズ1：自己調整学習の実践1	言語聴覚士の学修に必要な目標設定、計画立案、自己モニタリングの方法について学ぶ。具体的な目標設定の演習（短期・中期・長期）を行う。また、日々の学習計画の立て方、進捗管理の方法について、事例を交えながら検討する。	永見 慎輔 前田 秀彦 森元 良太 柳田 早織
12	アカデミック・スキルズ2：自己調整学習の実践2	効果的な学習方略の選択と調整、自己評価の方法について学ぶ。様々な学習方略（例：記憶方法、ノートの取り方、情報整理の方法）を紹介し、自分に合った方法を見つける。また、定期的な自己評価の方法（ポートフォリオ、チェックリストなど）を学び、実践する。（グループワーク、答えの無い問いを考える経験）	永見 慎輔 前田 秀彦 森元 良太 柳田 早織
13	アカデミック・スキルズ3：自己評価と振り返り	定期的な自己評価の方法（ポートフォリオ、チェックリスト、ルーブリックなど）を学び、実践する。これまでの学習を振り返り、自身の強みと弱みを分析する。今後の学習計画に活かすための改善点を見つけ、具体的なアクションプランを作成する。	永見 慎輔 榊原 健一 下村 敦司
14	ライフプラン形成1：言語聴覚士の多様な働き方	言語聴覚士の多様なキャリアパスについて、具体的な仕事内容、働き方、やりがい、課題などを紹介する。様々な分野で活躍するゲストスピーカーを招き、それぞれの経験やキャリアパスについて話を聞く。	逢坂 重志（講義協力者） 永見 慎輔 榊原 健一
15	ライフプラン形成2：キャリアデザインと将来設計	言語聴覚士として社会人としてどのようなライフプランを形成していくかを学ぶ。ライフイベントと仕事の両立についても考える。	森 美琴子（講義協力者） 永見 慎輔 榊原 健一

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

授業内で指定されるレポート（30%）

授業内で行う課題への取組状況（70%）

定期試験は行わない

【教科書】

指定しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

ABC of 医療プロフェッショナリズム 宮田靖志／翻訳，Nicola Cooper，Anna Frain，John Frain／編 羊土社

【学修の準備】

各テーマの内容について、分からない用語や概念について事前に調べるなどの予習をすること（80分）。

復習は、授業に関連する課題についてまとめ直したり、指示のあった提出物の作成を通じて学修を深めること（80分）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP1）生命の尊重と個人の尊厳を基盤とした幅広い教養と豊かな人間性、高い倫理観を持ち、優れたコミュニケーション能力を身につけている。

【実務経験】

永見慎輔、前田 秀彦、柳田 早織（すべて言語聴覚士）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関などでの臨床経験を活かした教育を行う。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している